

平成28年度 中学生の「税についての作文」優秀作品

租税教育の一環として行われています。「中学生の税についての作文」入選作品が決まり、11月16日に村上市民ふれあいセンターで表彰式が行われました。今年度は、村上税務署管内の中学10校から447編の作品が寄せられました。その中から、関川中学校より2名が入選されましたので紹介するとともに、受賞された作品の中から、新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞に選ばれた大島陽葉さんの作品を紹介します。



▶受賞した大島さん(左)と須貝さん(右)

【新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞】

「税を学んで」 関川中学校3年 大島陽葉 (上野新)

【関川村長賞】

「税があるから出来ること」 関川中学校3年 須貝花音 (高田)

「税を学んで」

関川村立関川中学校3年 大島陽葉さん

税金は少ないほうがいいのに。私は、消費税率が8%になったとき、そんなことを思いました。なぜ前まで105円で買った物に108円を払わなければならないのか納得がいきませんでした。その時の私にも、税金の使い道など、多少の知識はありました。それでも、深く考えることがなかったのです。税金が役に立っているという実感を得られずに税金イコール嫌なものだと思っていました。

私は、社会の授業と租税教室を通して、税について学びました。そこで、消費税率の引き上げは、「少子高齢化が進んでも、世代を問わず一人ひとりが安心して暮らせる社会を実現するため」なのだと思いました。私はとても納得しました。消費税は未来の社会のためにある、私が想像していたことより、ずっと素晴らしい目的だと思いました。大きな買い物をしていない私にとって、消費税は小さな負担にすぎません。その目的のためなら、消費税が少し多くなっただけなんでもないことではないか、と思うようになりました。

また、私たち中学生が税金によって支えられていることも知りました。中学生一人あたりの年間教育費は100万円近くにまで及ぶそうで、それは本当に莫大な金額だと思えます。教科書から体育館まで税金が使われている、そう意識してみると、物は大切に扱うべきだと改めて感じました。体育の先生が、「体育館の床に傷をつけるな」と耳にタコができるほど言っているのも、あるいは、多くの人が納めた税金でできている体育館なのだから、感謝して美しさを保てるように使え、という意味なのかもしれないと思いました。私は学校で勉強ができるのも、運動ができるのも、税金のおかげであるということ強く感じながら、学校生活を送るようになりました。

しかし、私の家で「税」という言葉は、あまり明るくない話題の中で使われます。例えば、「お父さんの車は税金がたくさんとられるのよ」とか「税があるから給料はそのままもらえないんだよ」とか、溜め息と共に使われたりします。きっと多くの人は、自分は税金を納めているという意識の方が強いから、税を憂鬱に捉えているのだと思います。中学生の私とは事情が異なるのでしょうか、私は税について学んだことで、税の感じ方が変わりました。「税のおかげ」と思うことが以前よりずっと増えました。病院へ行っても安い受診料で済むのも、道路がきれいに修理されるのも、税の支えがあるからです。税は私たちの生活を明るく照らすものだと思います。

私はこれからも、自分たちを支えてくれている税と、たくさんの人々に、感謝の気持ちを持つことを忘れずにいたいのです。そして、自分の納めるべき税は、それまでの支えに対する恩返しのもつりであり、誰かの支えになるために、しっかりと納めたいと思います。

